

## 平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- 美術教育を通じ、美術造形に対する憧憬を生涯の目標として、人生を拓く力、美しく品性溢れる人格を育む
- 1 生徒の普通教科の学力が多様であることを踏まえ、創造的活動の基礎・基本となる学力を養成する。
  - 2 創造的活動を支えるものとして、自らの考えを説明する力やコミュニケーション力などの言語表現力を育成する。
  - 3 生徒が自分にあった進路を見つけ将来の展望を描ける環境を整え、一人ひとりの進路を実現する。
  - 4 放課後も活気溢れる学校を実現し、生徒の自主性自律性ととも協調性を育成する。
  - 5 美術造形教育のセンター校として、美術造形教育の充実・振興に貢献し、文化の薫り高い大阪の実現に寄与する。

## 2 中期的目標

- 1 創造的活動の基礎・基本となる学力の養成**
- ・ 新教育課程の編成において造形教科と普通教科の単位数(バランス)を見直し、普通教科の学力の養成に必要な単位数を確保した。今後、国公立大学進学を希望する生徒が実技と学習にバランスよく取り組めるよう、補習・講習の時間について整理と管理を行う。
  - ・ 生徒に自己の学力プロフィールを客観的に理解させることを通じて、普通教科に対する関心・意欲を高め、学習に取り組ませる。
  - ・ 生徒の学力が多様であることを踏まえ、個に応じた学力の養成を行うために普通科各教科で少人数授業の実施を検討し、ICT 機器の利用を推進する。
  - ・ 平成 24 年度から実施している造形教科と普通教科の関係、総合的な学力が創作活動の源泉となることを理解させるための宿泊研修について、行事全体がよりよいものとなるようプログラム等の効果検証を今年度に反映させるとともに、次年度以降も継続的に改善を図る。
  - ・ 読書活動の充実を図るなど、創造的活動の基礎・基本となる幅広い学力の養成に努める。
  - ・ 日本の伝統文化や世界の文化遺産を自らの眼で見る機会をつくり、それらの学びと体感をおし、幅広い教養を身につけさせる。
- ※ 生徒による授業アンケートにおいて普通教科の「授業内容に、興味・関心をもつことができたか」について、肯定的回答平成 26 年度 80%を目標とする。
- 2 創造的活動のための説明力・コミュニケーション能力の育成**
- ・ 造形科の合評において、プレゼンテーションや相互批評を行うなどコミュニケーション能力の育成を図る。また、卒業制作プレゼンテーションなど、コミュニケーション力を試す機会の創設・実施について検討する。
  - ・ 普通科の授業において、プレゼンテーションや相互批評など手法の工夫を行い、コミュニケーション能力の育成を図る。
- ※ プレゼンテーション能力とコミュニケーション能力の育成について、平成 26 年度を目標に卒業時にすべての領域の生徒が言語に加えボードや映像を活用してプレゼンテーションを行えるようにし、造形表現力とともに言語表現力の育成を図る。
- 3 将来展望がもてる進路指導の実現**
- ・ 美術造形との生涯に渡るかかわり方や大きな将来展望を考えさせるとともに、将来の職業につながる志を育てるために、内外で活躍する卒業生の講演、企業や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。
  - ・ 早期のガイダンスを実施し、具体的な目標の実現に至る道筋を示すとともに、個に応じたきめ細かな進路指導を組織的に行うことにより、よりよい進路の実現を図る。
  - ・ 国公立大学(美術系等)や難関私立大への進学を実現できる体制を整備する。
  - ・ 卒業生の大学入学後の状況を調査し、社会とのつながり、接続等を研究し、進路指導等に活用する方策を検討する。
- ※ 美術系大学等への進学者の入学後の状況を調査・研究し、大学等への進学後に退学することのない進路指導(手法・内容)を平成 26 年度までに実現する。
- 4 放課後も活気ある学校と自主自律の心の育成**
- ・ 創造的活動に意欲的に取り組ませるとともに、社会人基礎力の養成につながる多様な経験を積ませるために、部活動への積極的な加入をすすめる。
  - ・ 生徒が部活動に定着する環境を整えるために、年間行事計画の検討を行う。
  - ・ 地域・外部連携事業、ボランティア活動、公募展等への参加を促進し、発表の喜びや社会貢献の大切さを体感させる。
- ※ 改善を重ねてきた部活動加入者数(延べ 700 名)や高校展への出品者数(延べ 300 名)が減少しないよう取組みを継続し、現在の水準を維持する。
- 5 美術造形教育センター校としての役割**
- ・ 大阪の美術教育の振興に貢献するため、現在の中学校教員対象実技研修会を充実するとともに、本校の教育資源(施設設備、教員、大学・美術工芸団体等との連携関係)を有効に活用し、対象者を小学校教員にまで拡大する。
  - ・ 本校の教育資源を活用して、校種をこえて高度な美術造形の世界を経験できる機会を提供し、大阪の美術教育の振興に貢献する。
  - ・ 学校外での生徒作品の展示、報道媒体への情報提供、HPの充実等による積極的な広報活動を展開し、大阪における本校の存在感を高める。
  - ・ 府立高校で唯一の美術造形専門高校にふさわしい教育活動を展開するため、施設設備及び教材教具等の適切な改善と充実、海外研修旅行の実施に取組む。
- ※ 本校で開催する小・中学校教員を対象とする研修会やワークショップへの参加者について 110 名程度の水準を維持する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 25 年 1 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【全般】</b></p> <p>○ 肯定的な回答率 80%以上の項目は、全 20 項目中生徒 11 項目、保護者 12 項目で、昨年並みとなり、ここ数年の改善が評価されていると思われる。</p> <p><b>【授業】</b></p> <p>○ 授業に関する生徒の肯定的回答は 82%以上。保護者は昨年度の 68%から 72%に向上した。造形教科に対する評価がやや高くなる傾向には変わりはなく、生徒・保護者とも 90%以上が「内容が充実しており、個々の適性に応じて選択できる」と回答している。</p> <p>○ 「進路実現のための講習が十分に行われている」という回答が生徒 85%、保護者 79%であり、一定の好評価を得られているので、今後も取組みを継続させる。</p> <p><b>【安全】</b></p> <p>○ 災害時の避難に関する肯定的回答が生徒では 84%であり、年 2 回実施した火災と津波に関する避難訓練に対する評価だと思われる。また、埋立地であることから陥没箇所も発見でき、迅速に補修を行った。</p> <p><b>【課題】</b></p> <p>○ 「国際理解教育」と「地域連携」では、参加した者としなかった者で評価に明らかな違いがみられる。特に地域との交流機会は増えたが、生徒が府下全域から通学していることもあり、地域連携という意識にまでは高められなかった。</p>	<p>第 1 回 (6 月 12 日)</p> <p>○ 平成 25 年度学校経営計画及び平成 24 年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般企業や公的機関とのデザインの提供をとおした連携は、目的や内容の見極めをしっかりとるように。部活動は活発だが、もっと運動系で身体を動かすよるこびを知って欲しい。</li> <li>・ 災害時の対応について、近隣企業とも相談してはどうだろう。また、美術だけでなく国際情勢などについての興味をもたせることも大切だと思う。</li> </ul> <p>第 2 回 (10 月 9 日)</p> <p>○ 学校経営計画進捗状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力診断テストでは、ここ数年の取組みが成果として表れたと考えられる。小・中学校教員向け実技講習会の参加者も増えており、この流れを絶やすことなく取り組んで欲しい。</li> </ul> <p>○ 学校教育自己診断・授業アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒にとっては時間のかかるアンケートだと思う。学校の特徴として造形教科が高得点になるのはやむを得ない。</li> </ul> <p>第 3 回 (1 月 29 日)</p> <p>○ H25 学校経営計画達成状況・H26 学校経営計画(案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒間に国際理解や地域連携の認識の差はあるだろうが、今後とも進めて欲しい。</li> <li>・ 学校は防災訓練に地域連携を考えているようなので、ぜひ実現して欲しい。</li> </ul> <p>○ 学校教育自己診断結果・授業アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語力(言語表現力)の向上が顕著なので、原因分析とともに一層伸ばして欲しい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 創造的活動の基礎・基本となる学力の養成	(1) 創造的活動の基礎・基本となる学力を養成	<p>ア 学力診断テストを、学力の養成により効果的に活用する方策として、自己の学力の相対的な状況を生徒に認識させる機会を設けることで、普通教科の単位数が普通科高校に比較して少ないことを自覚させ、主体的に学習に取り組み、基礎学力の養成を図る。</p> <p>イ 普通教科における小テストと宿題により家庭学習の習慣をつける。</p> <p>ウ 普通科の学力を養成できる授業を目標に、ICTを活用した授業などテーマを決めた研究授業を行い、授業改善を進める。</p>	<p>ア 学力診断テストの結果をもとに個別面談を行う。</p> <p>・相対的な個々の力を自覚させる。</p> <p>・1年生5月(第1回)の学校としての相対的な成績を9月(第2回)の成績において維持する。</p> <p>イ 家庭学習時間0分の生徒数の前年度比5%減(H24年1年生9月36%)</p> <p>ウ 研究授業・研究協議の実施5回</p> <p>・授業アンケートにおける「興味・関心」「学習内容習得」の項目における肯定的回答80%以上</p> <p>・ICT機器を利用した授業をH24年度より10%増加させる。</p>	<p>ア・1年生では5月と9月の成績において、9月の成績が著しく向上した。当初の目標は入学直後の学力維持であったが、64%の生徒が第1回の成績より向上している。さらに、2年生も76%の生徒に成績の向上がみられた。「家庭学習強化週間」や夏休みの課題が今回の好結果の要因であると考えられる。(◎)</p> <p>イ・成績が向上した反面、家庭学習時間0分の生徒数は55%に上昇した。意図的に宿題などの課題量を増やしたため、宿題は学校で済ませて帰宅する生徒が増えた。さらに、質問で「宿題を除く」と改めたため、家庭学習をしていないという回答が増えたと分析している。(△)</p> <p>ウ・研究授業・研究協議は6回実施。ICT機器の利用を促進する目的で実施した研究授業などの地道な努力を今後も継続したい。(○)</p> <p>・授業アンケートにおける「興味・関心」「学習内容習得」項目の肯定的回答は82%であった。また、教員が教え方の工夫をしていると回答した生徒は83%であった。(○)</p> <p>・ICT機器を利用した授業は、普通教科や造形教科でも増え、H24年度比較では約20%の増加がみられた。(◎)</p>
2 将来展望がもてる進路指導の実現	(2) 将来展望をもてる進路指導の実現	<p>ア 将来の職業につながる志を育てるために、内外で活躍する卒業生の講演、企業・工房や芸術団体と連携した取組み、高一大・専連携講座等の一層の充実を図る。</p> <p>イ 苦手なことにも取り組ませる導入として、大学や専門学校における授業の実際や大学での学習の準備として高校で取り組んでおくべきことについて、卒業生等から話を聞き交流する場を設ける。</p> <p>ウ 国公立大学・難関私立美大進学希望者対象の講習を学校として組織的に実施し、生徒への日常的な呼びかけを行い、年間を通じた受講者の定着を図る。</p> <p>エ 平成26年度から卒業2年後のアンケート調査を行い、卒業生の進路満足度等を測定するためのアンケート立案と実施方法について検討する。</p>	<p>ア 各講座の趣旨目的を明確にして周知し、参加生徒数を増やす。</p> <p>・延べ参加者数220名以上(前年度比10%増)</p> <p>イ 卒業生、大学等との交流の場を設定。</p> <p>・参加者数100名程度</p> <p>ウ 国語、社会、理科、英語の通年の受講と受講者10名以上</p> <p>エ 回答率70%以上をめざす。</p>	<p>ア・学年全体を対象として大学に依頼した講座数は5講座。また、希望者を対象とした講座への参加者はのべ250名であった(◎)</p> <p>イ・卒業生との交流会に参加した生徒は120名。卒業生との交流会は好評であり、来年度以降もさまざまな形態で実施していく。(○)</p> <p>ウ・国語、社会、理科、英語の通年受講者は15名であったが、これからもこの水準を維持したい。(○)</p> <p>エ・今年度は進路指導部が、アンケートの質問への答えやすさ、項目数、実施時期などの再検討を行った。新しいアンケートは平成26年5月実施にする。(△)</p>
3 美術造形教育センター校としての役割	(3) 美術造形教育のセンター校としての美術造形教育の充実・振興への貢献と文化の薫り高い大阪の実現への寄与	<p>ア 小・中学校教員対象実技研修会を、大学等と連携して実施する。</p> <p>イ 高校展、芸文祭展等の公募展へ積極的な参加を生徒に奨励するとともに、質の高い作品を多数出品することにより大阪の美術造形教育の質の向上に貢献する。</p> <p>ウ 平成4年度に設置された実習棟の空調設備(5室16機)の更新について関係課と協議を行い、具体的な更新計画の決定をめざす。</p>	<p>ア 平成24年度の実績を維持する。</p> <p>・参加者数110名程度</p> <p>イ 平成24年度に達成した高校展出品者数と入賞者数を維持する。</p> <p>・出品者数のべ300名程度</p> <p>・入賞者数のべ100名程度</p> <p>ウ 更新計画策定の進捗を確認し、要望を実現する。</p>	<p>ア・小・中学校教員対象実技講習会参加者は、小学校45名、中学校100名、合計145名になり、目標を上回った。この講習会が今後さらに充実するように小・中学校の研究会組織との連携を強化していく。(◎)</p> <p>イ・高校展・芸文祭出品者数は449名。(◎)</p> <p>・入賞者数は110名であった。(○)</p> <p>ウ・実習棟空調設備の更新は実現できなかったが、施設財務課の担当者が来校し、騒音など環境面の観点から視察を実施した。今後も国制度の活用も含めて検討を行うとのことである。その他、創立30周年記念事業として視聴覚教室の整備を計画し、講演会や交流会、学習会の活用を増やすため空調機を新設するとともに、壁面と床面の更新を行った。(△)</p>